

愛知登文会ニュース 第38号

令和6年11月20日発行

1 事業実施報告「新規登録文化財訪問」(2024年度)

近年登録された登録有形文化財を会員の所有者が訪問し、所有者や登録に関わられた専門家の方にご案内いただくとともに意見交換を行いました。

第1回 守随家住宅(旧山田家住宅) 石積護岸【東海市】 5月30日午後(8名)

今年3月に登録されたものです。服部長七の考案した人造石の護岸が住宅敷地の3面に残されており、かつてはここが海に面していたことがわかります。

所有者は聚楽園大仏を造った山田才吉の子孫にあたり、碧南での人造石護岸発見報道を見て同じものが自宅にあると気づき、研究者に見てもらうことで貴重な人造石であることがわかったとのこと。

山田才吉に関する資料などもご紹介いただくとともに聚楽園も案内いただきました。



第2回 間瀬家住宅【半田市】

6月28日午前(8名)

今年3月に登録された建物です。主屋は明治17年建築され、昭和7年に座敷が増築されたもので造形の規範となっているものとして登録されています。

現在は立川美術館の別館として活用されており、土日にはこの空間でモーニングを味わうこともできます。

建築史家の村瀬さんと立川流彫刻工房の方に建物を案内いただくとともに、半田の山車(やまくるま)や立川流彫刻についても様々なお話しをしていただきました。



第3回 久野家住宅【東海市】

6月28日午後(8名)

今年3月に登録された建物です。大正時代を代表する文化人の一人である西村伊作の設計した洋館で、正門と擬木門も登録されています。南面には芝の庭園があり、西側の愛敬山(標高44m)と一体となった風景が魅力的です。

昨年のあいたて博でもご協力頂いた永柳先生にも同席いただき、お話しを伺うとともに、登録文化財の保存活用に係る課題についても意見交換しました。現在建物の修復や土塀の再建が進められていますが、多額の費用がかかるため、なかなか進まないのが現状のようです。



第4回 角上楼本館・井筒館【田原市】

7月16日午後（4名）

昨年2月に登録された建物です。福江が港町として栄えたことを物語る料理旅館で、井筒楼は明治元年、角上楼は昭和11年の建築です。平成の初めの頃はほとんど宿泊客がない状態だった角上楼を3代目当主が引き継いで再生、空き家となっていた井筒楼を購入し、2つの建物を魅力的な宿泊施設として活用されています。

田原市で初の登録に向け尽力いただいた望月さんにも同席いただきました。角上楼廊下には幅広の松材がふんだんに使われ、鉋あとの残る見事な仕上げ。古建築の良さが味わえる一方で、18室ある客室はおしゃれな空間に改装され、全てデザインは異なっています。



第5回 旧伊東合資会社【半田市】

8月22日午前（7名）

2022年10月に登録された建物です。旧伊東合資会社は江戸後期建造で、醸造業を営む庄屋格旧家。蔵はレストランに改装し活用されています。主屋も今後の活用に向けて準備中との事でした。

隣接する酒蔵は、いったん廃業するも復活改装し酒造りはもちろん、「カフェ」や「ショップ」なども併設した歴史的複合施設として活用され、年数回のイベントでは、のべ10,000人の来客があるとの事でした。登録に向けご尽力いただいた川口さんにも同席いただき、お話を伺うとともにご案内いただきました。



第6回 旧中荻半六亭【半田市】

8月22日午後（5名）

昨年11月に登録された建物です。中荻半六邸は半田運河沿いに位置し、醸造業などで栄えた明治中期建造の商家住宅。

半田市によって一旦は取り壊しが決定するも、有志による活動で半田市より無償譲渡を受けNPO法人半六コラボによって保存活用がなされています。現在は1階部分をレストランと物販スペースとして、2階部分を貸しスペースとして活用されていました。登録に向けご尽力いただいた渡邊さんにも同席いただき、お話を伺うとともに、ご案内いただきました。



小冊子「あいちのたてもの」書籍化プロジェクト進行中

今年度は補助金が減額されたことから小冊子については制作できませんが、それに代わるものとして、これまで制作した小冊子のうち明治村編を除く5冊を1つにとめる書籍(A5サイズカラー270頁以上)を制作しようと、book「あいちのたてもの」制作委員会が立ち上げられ、取組が進められています。

公益財団法人森村豊明会から150万円の助成が決定しましたが、制作に最低限必要な資金としては不足しており、クラウドファンディングでのご支援を募っています。愛知の魅力ある文化財建造物を多くの人に知ってもらい、取組にご支援よろしくお祈りします。

募集期間:12月10日まで



2 事業実施報告「ウィキペディア愛知登文会」(2024年度)

愛知県内の登録有形文化財に関する情報を充実させていこうという取組。昨年に続いて2年目です。

勉強会、2回の見学会、3回のワークショップを通じて、ウィキペディアンの方々の多大なご協力により、これまでウィキペディアになかった愛知県内の登録有形文化財に関する40もの項目が立ち上がりました。新たに立ち上がった項目は愛知登文会のウィキペディアページからのリンクで見ることができます。

ウィキペディアページを1から立ち上げるのは大変ですが、ページに加筆することはハードルが下がります。新規の40項目は最低限必要な事項しか記載できていない段階です。皆さんの協力も得て、充実させることができればと思います。

ウィキペディア編集・勉強会

まずは勉強会でウィキペディアやその編集に関わる基本的な事項を「ウィキペディアでまちおこし」の著書である伊達さんに講義いただき、アカウント作成や既存ページの追加作業を経験しました。

ウィキペディア編集というと難しそうですが、3名のウィキペディアンの方にもご参加いただき、実際にやってみると、そんなに難しくはありませんでした。



開催日時	内容	参加者
R6.7.21(日) 14:00~ 16:00	① ウィキペディア編集の利点と注意事項 講師：伊達深雪氏（京都府立丹後緑風高等学校久美浜学舎） ② ウィキペディア編集体験（編集方法の基本事項）	18名 (事務局含む)

見学会・ワークショップ

今年は登録有形文化財を実際に訪問し、そのページを作成することとし、名古屋市の筧家住宅、犬山市の尾関家住宅で見学会を行いました。参加者は資料や建物を所有者からご案内いただきながらウィキペディアに掲載する情報の収集を行いました。

ワークショップでは伊達氏やウィキペディアンの方に参加いただき、協力を得ながら編集作業を行いました。愛知登文会として、ウィキペディアをどのように活用していくべきか、講師の方々と交え意見交換も行いました。今後の情報発信に繋がるようにしていければと思います。

開催日時	内容(手がけたウィキペディア編集作業)	参加者
R6.8.18(日) 10:00~12:00	【見学会】 筧家住宅説明・案内	10名 (事務局含む)
R6.8.26(月) 18:30~20:00	【WS】 筧家住宅ウィキページアップ/川田家住宅作業	13名 (事務局含む)
R6.9.7(日) 10:00~12:00	【見学会】 尾関家住宅説明・案内	9名 (事務局含む)
R6.9.11(水) 18:30~20:00	【WS】 尾関家住宅作業・川田家住宅作業/進め方についての意見交換	11名 (事務局含む)
R6.9.30(月) 18:30~20:00	【WS】 尾関家住宅・川田家住宅ウィキページアップ/正会員のウィキページアップ	9名 (事務局含む)



▲筧家住宅見学会の様子



▲尾関家住宅見学会の様子



▲WSの様子

3 事業実施報告「文化財魅力発信サポーター」(2024年度)

より多くの方に文化財建造物の魅力を知っていただくため、昨年度から文化財魅力発信サポーターとして協力いただける方を増やす取組を行なっています。今年も名古屋市市政資料館で、文化財魅力発信についてのレクチャーとワークショップを実施しました。まず座学として3つの点から学んだ後、名古屋市市政資料館の見学ツアーを実施、その様子を情報発信いただきました。

終了後は参加者の12名の方にサポーターとして登録いただきました。あいたて博などの機会を通じて文化財の魅力を発信していただくこととしています。



▲ツアーの様子

R6.9.22(日)	内容	参加者
10:00~ 15:00 (休憩1時間30分)	午前の部：3名の講師によるお話&意見交換・経験交流 1) 建物の見方・魅力発見の方法 講師：村瀬良太氏 (建築史家、あいたて博実行委員会委員長) 2) 写真撮影のコツ 講師：熊本仁志氏 (冊子「あいちのたてもの」協力カメラマン) 3) Instagramによる情報発信 講師：井戸祐美子氏 (一級建築士、いくいくみるInstagram担当) 午後の部：名古屋市市政資料館ツアー&情報発信	20名 (講師・事務局含む)



建物を撮影する時に意識している事

熊本 仁志

小冊子「あいちのたてもの」の制作にあたり、様々な建物を撮影してきました。何を撮る時も同じですが、何をどう撮りたいかを事前に想定するが大事だと思っています。その他、撮影に当たって意識していることを紹介します。

○外観撮影

- ・外観をしっかり見せたいなら晴天よりは曇りくらいの方が好ましい
- ・風景との調和にポイントを置いたら 季節、時間帯、天候 etc

○室内撮影

- ・できるだけ自然光を生かす (フラッシュは基本NG)
- ・3脚があったほうが良い

○撮影の際の服装

- ・服装は無地、モノトーンが好ましい (ガラス等への映り込み防止)

○アングル

- ・煽りの強いアングル (偏った方向からの撮影) は控える
- ・特に低すぎると煽りが強くなりすぎる

○スマートフォンの活用

- ・最新のスマートフォンは広角撮影、暗所撮影その他で活用できる
- ・スマートフォンの中で色味、明るさ、台形補正などの編集ができる



煽りが強すぎて建物が歪んで見える



アングルを変えて煽り控えめになっている

編集後記

今号では、昨年度から新たに取組んでいる3つの事業を報告しています。皆様のご支援・ご協力のもと、昨年の反省を活かしながら無事に開催することができました。ウィキペディア愛知登文会、文化財魅力発信は日々継続して行っていくことが非常に重要だと考えております。今後も試行錯誤しながらより多くの方々へ届くよう、皆様とともに情報発信を行っていきたいと思います。

愛知登文会ニュース 第38号

発行日：令和6年11月20日

発行者：愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会
〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目6番15号先
名古屋テレビ塔株式会社内

TEL 052-971-8546 FAX 052-961-0561

E-mail info@aichi-tobunkai.org

HP http://www.aichi-tobunkai.org

Facebook @aichi.tobunkai

X(旧 Twitter) @aichitobunkai

Instagram aichitobunkai



LINE
(自動応答)